

保護者・地域のみなさんへ これからの先端教育を紹介します。

荘内中のGIGAスクール推進!

現在、GIGAスクール構想が推進されています。これって何でしょう？GIGAとは、「すべての人にグローバルで革新的な入り口を」という意味であり、「誰一人取り残すことなく子どもたち一人一人に個別最適化され、創造性に富む教育ICT環境の実現」により、新しい学びを推進し、これからの社会で強く生きていく力の育成が学校教育に求められています。荘内中学校区では9年間の義務教育一貫教育の流れの中でGIGAスクール構想の理念の実現に取り組みます。

GIGAスクールって？どうして必要？

これからの社会は？

AI進化や経済の国際化による産業構造激変、人口減少や高齢化等、誰もが予測困難な時代に突入！

子どもたちはそんな社会でどう生きていく？

知識の多さより、解のない課題の解決に意欲的に取り組み、切り抜けていこうとする力が必要
それは、新しい仕事を起業したり、これまでの業務を見直して新しい業務を創り出す力に繋がる。

時の流れはあまりに速い！今ある仕事もどんどん無くなり、新しい仕事が生まれてくる。この玉野市ですら人口減少が加速化し、十数年後にはどうなっているか分からない。

学習指導要領では、子どもに育むべき資質能力を次の三つの柱で示され、評価の観点とされています。

- ◆何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
- ◆知っていること、できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
- ◆どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性）

知識だけではだめ、解のない課題の解決のためにどう取り組み、実際にどう表現し、動くのかを評価するため、協同的な学びや体験的な学びを提供していきます。例えば、SDGsの課題解決型学習やキャリア教育の推進です。

学校では、GIGAスクール推進により貸与された子ども一人一台学習用端末を活用し、これまでの知識伝達型の学習から自己探求型の学習へ学習活動を転換しています。これは、端末を活用する能力を身に付けさせるのではなく、端末を文房具と同様に活用しながら、学習指導要領が求める資質・能力を育成し、これからの予測困難な社会を生きていくための力を育むためにあるものです。

荘内中学校区では、こうした次世代型教育を推進し、学習指導要領の具現化に取り組んでいます。

荘内中:学習用端末活用の取組を紹介



貸与されている学習用端末はどんなもの？

子どもたちに貸与された学習用端末はChromeBookという端末です。従来のパソコンと違い、インターネット上のクラウドを活用することが前提ですので、パソコン内にソフトやデータは入っていません。つまり空箱です。すべてクラウド上で管理されています。また、インターネット上で常に最新のセキュリティプログラムで保護されるため、セキュリティー保護は安心できます。

また、基本的には「Google Workspace for Education」システムを活用するため、貸与端末だけでなくご家庭のパソコンやスマートフォン等でもログインすれば、端末を持ち帰らなくても、学習を続けることができます。

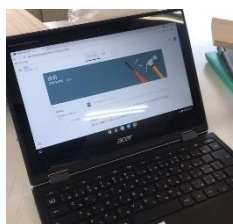
※与えられているIDやパスワードは厳重に管理し、流出しないようにしなければなりません。

貸与端末はインターネットに接続していないとほとんど使うことができません。学校内のWi-Fi環境や家庭内のWi-Fi環境でのインターネット接続が必要です。ご家庭でも環境整備をお願いします。

※様々な事由により家庭でのWi-Fi環境整備が困難な場合は、市教育委員会による支援があります。

子どもは学習用端末で何をしているの？

Classroomによる学習の取組



子どもたちの端末（クラウド）の中には、GoogleのClassroomというシステムにより各教科、学級、学校等の部屋が設置されています。

教師は、この部屋の中で様々な学習支援等に取り組みます。

- ◆様々なこまめな連絡
- ◆授業の予習・復習課題、宿題等の提示
- ◆単元テストの実施
- ◆学習内容の深化のためのヒント等の提示



このClassroomは「Google Workspace for Education」のシステムの一つで有り、子どもたちは提示された課題の作成のために「ドキュメント」（文書作成）「スプレッドシート」（表計算）「スライド」（プレゼンテーション作成）等のシステムを駆使して学習を進めます。

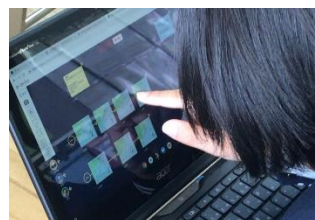


調べ学習で、プレゼンテーションを作成して発表したり、体育の実技で動画提出、音楽の歌を音声提出、技術や美術の作品を写真提出するなど、これまでにない工夫をしています。



自主的にWeb検索で疑問を自己解決

授業中にわからないことを自分でWeb検索して解決したり、休み時間に気になる事柄について検索して理解を深めています。



授業で「ロイロノート」アプリを活用

授業中、「ロイロノート」という学習支援アプリを活用して、考えをまとめたり、友人たちの意見を共有して考えを深めたりしています。課題の提出も行えます。



端末を文房具として活用し、協同学習で周囲と議論しながら自分の考えを深める！



学習用端末を使うことで、周囲との繋がりが薄くなるのでは？という意見をよく聞きます。

まさに逆です。授業では、グループで課題について話し合い、端末で意見を効果的に集約したり、疑問点はWeb検索したりしながら、解を導き出すなど、これまで以上に協同学習を進めていますので、生徒たちのコミュニケーション能力も向上していきます。

荘内中:学びを止めないオンライン授業の実施等

コロナ禍の中で、どんな状況になっても生徒の学びを止めない取組を行うため、これまでもオンライン授業の試行や欠席生徒への授業配信等を行ってきました。先生方のオンライン授業実施スキルも少しずつ向上しています。今後も試行を繰り返し、オンライン授業を受ける生徒のスキルアップや先生の授業力アップに取り組んでいきます。



【オンライン授業】

- ①教師が学級全員の生徒を対象として行う双方向のオンライン授業（臨時休校時等に実施）
- ②授業をオンライン配信し欠席生徒等が双方向で参加するオンライン授業（長期出席停止生徒への支援）
- ③授業動画をWeb上で配信（欠席生徒への支援や授業の振り返り等で活用）
- ④学級の生徒の半数が教室で参加、半数はオンラインで参加するオンライン授業（分散登校等に対応）
※ハイブリット型授業といわれる形態（2学期以降、随時試行を実施予定です。）

※校内でも密を避けるため、オンライン全校集会やオンライン生徒会会議等を行っています。
また、夏期休業中はオンライン学活、個別面談等も行っています。

アフターコロナの社会ではオンライン会議等のやり取りが日常化することでしょう。しっかり生徒たちにこれからの社会で必要となるスキルを身に付けさせていきたいと思います。



荘内中学校区一貫教育の中で

GIGAスクール構想はコロナウイルス感染症の拡大の中で一気に今年度から始まりました。学校教育の中で効果的に学習用端末を活用する次世代型教育を実現するにはまだまだ時間がかかります。また、キーボード入力のスキルを義務教育段階のどこで身に付けさせていくのか等、これから中学校区一貫教育の中でどう段階的に情報活用能力を育成するのかを明確に計画しなければなりません。今、荘内中学校区の先生方で話し合いを続けています。

今後も、未来の学校づくりを小中学校の先生方で進めていきますので、よろしくお願いします。